市民参加型在宅福祉の実現にむけて

サービス協会・看護婦
葉山広子

サービス協会が発足して半年が過ぎた十月の下旬に「介助ボランティア体験学習」が実施されました。

私の仕事は、在宅療養されている方の訪問看護をしながら、同行した体験学習受講者の方に、訪問看護とはどういうものなのかを知っていただくことです。どなたも積極的に対象者や介護者に話しかけ、台所を片付けて下さったり、また、清拭の時は身体を支えて下さいました。私自身とても助かったことはいうまでもありません。そして何よりも対象者や介護をなさっている家族の方がとても喜んでくれたことがうれしかったです。

ボランティアの方と同行した次の週に、家族の方から「あら、今日はこの間の人と一緒じゃないの？」と言われました。そこで、ボランティアとはどういうものなのかをお話すると「ありがたいことだね、本当に心強いよ。」と言われました。本当にこの言葉のとおりだと思います。

私は四人のボランティアの方とかかわりあえるチャンスを与えられました。どなたも、私がこの仕事を始めた時のような気負いがないのにまず驚きました。自分には、こんなことができる…というのではなく、自分に何ができるだろう…という気持ちが、話し方や対象者に接する態度でヒシヒシと感じたのです。

三浦市の市民参加型在宅福祉の実現にむけて、記念すべき第一回介助ボランティア体験学習卒業生の皆さん！協会も皆さんもやっと歩行器で歩き始めたところです。一緒に頑張っていきましょう。

介助ボランティアに同行して

サービス・協会家庭介助員
五十嵐冨子

今回の「介助ボランティア体験学習」では五名の方が私たち介助員と共に、寝たきりのお年寄りを抱えているご家庭などの掃除・洗濯・炊事・買い物等の日常生活のお世話を体験されました。

初めて自分と全く違う価値観・環境・生活レベル・人生を持つ他人の家庭に入り込むわけですから、皆さん相当緊張なさっていたようです。それでも一歩家の中に入って仕事を始めると、自分の生活の延長のようにてきぱき動いていてくださいました。

対象者の中にはとても気むづかしい方もいて（ボランティアさんにピッタリくっついて仕事の一つ一つを指示し、洗濯物の干し方から野菜の切り方に至るまで全て自分の思いどおりにならなければすまない人等）やりにくかったでしょうが、皆さん笑顔で対応され頑張ってくれました。

ヘルパーとはどういう仕事をするものなのかを知り、皆さん感動されていましたが、清拭など、実際に対象者の体に触れる時の緊張しながらもお世話をしようと一生懸命な姿には、こちらも胸打たれました。

誰でも普通にやっていることをできないでいる苦しさ…本当に豊かな社会参加とは、そんな誰もが人生の中で経験できることを、普通に『体験』することなのかも知れません。

ボランティアさんの訪問は対象者宅にとっても刺激となったようで、「時々お願いしたいですね。」との声もありました。今後とも地域福祉を支えて下さるボランティアさんの参加を望みます。

あとがき

今まで三浦市は「福祉ボランティア」が育ちにくいといわれてきました。

しかし今年四月、社会福祉協議会の中に『保健福祉サービス協会』がつくられたことを契機に、高齢者やハンディキャップを持つ人が急増していくであろう二十一世紀にむけて「今から本腰を入れて市民に呼びかけ、福祉ボランティアの活動を促進していこう！」という意気込みで、初めての試みである『介助ボランティア体験学習』を実施したのです。

呼びかけに応えて下さった五人の方々の真剣な姿と、ご協力下さった方々に心から感謝し、また、この経験をより多くの方々に知っていただきたく、この文集を発行いたしました。

こうした輪が少しづつでも広がっていくことを切望いたします。

どうかご覧いただき、ご意見をお寄せ下さい。

みんなで築こう！「福祉三浦」